

2024年8月2日

日本の学生が選ぶゴンクール賞

組織及び事業内容に関する規定

1. 目的

1.1 「日本の学生が選ぶゴンクール賞」は、2021年、フランスのアカデミー・ゴンクールの委嘱のもと、澤田直（立教大学教授）、ミカエル・フェリエ（中央大学教授）、コリーヌ・カンタン（翻訳家）の提言により東京都において発足したものである。

1.2 ゴンクール賞は、フランスで最も権威のある文学賞の一つで、アカデミー・ゴンクールが選考委員を組織し、毎年11月にその年の優秀長篇小説に授与するものである。

1.3 「日本の学生が選ぶゴンクール賞」は、フランスのアカデミー・ゴンクールが主催する「高校生が選ぶゴンクール賞」の国際版として30を超える国で組織されている Choix Goncourt international の日本版である。その目的は、日本におけるフランス語文学・文化の普及およびフランス語教育の推進、さらには、フランス語作品の良質な翻訳出版の促進である。

1.4 2024年より、「日本の学生が選ぶゴンクール賞」は、公益財団法人日仏文化交流協会（以下、「財団」と表記する）の事業の一部となる。

1.5 在日フランス大使館およびアンスティチュ・フランセは、ゴンクール賞日本のパートナーである。日本フランス語フランス文学会、日仏会館、フランス語教育振興会はその支援団体である。

2. 選考

2.1 アカデミー・ゴンクールは傑出したフランス語小説（長編）に対して文学賞を授与するが、「日本の学生が選ぶゴンクール賞」は、毎年、アカデミー・ゴンクールの提出するラージリストから受賞作品を学生からなる選考委員が選出するものである。

2.2 毎年10月から翌年の3月までの半期にわたり、主に大学教員からなる運営委員の支援のもと、フランス語を学ぶ日本の大学生および高校生が日本の5地域において読書会を行い、第4条に規定される条件に則った投票により選ばれた4冊の著書について、読み合わせや意見交換をするために定期的に集まり（リモート会議も含む）授賞作品の選考を行う。

2.3 5地域に別れて選考を行った後、各地域の代表者2名が東京日仏学院に集まり、最終選考会を行い、「日本の学生が選ぶゴンクール賞」を選出する。

2.4 受賞作品の選考と同日、フランス大使公邸にて、駐日フランス大使の出席のもと、学生選考委員代表、運営委員、出版者、評論家などが列席するレセプションにおいて、「日本の学生が選ぶゴンクール賞」の授賞作品の発表が行われる。

3. 組織

3.1 「日本の学生が選ぶゴンクール賞」の企画運営は、実行委員会に委ねられる。実行委員会は完全な独立性を有する。実行委員会は、組織委員会、運営委員会、選考委員会、事務局からなる。委員は無報酬とする。ただし、その職務を行なうために要する費用の支払いをすることができる。

3.2 組織委員会

組織委員会は、財団理事会が任命する委員長1名、委員2名からなり、企画・運営を統括し、運営委員、選考委員、事務局を任命する。任期は5年とする。

3.3 運営委員会

運営委員会は、フランス語およびフランス文学を教える教員により組織され、組織委員会が選任する。運営委員会は、組織委員会の下部組織として、作品選考に必要な資料作りを担当し、選考に必要な地区選考会議を運営する。任期は1年とし、再任することができる。

3.4 選考委員会

選考委員会は公募によって選出された日本の高校生、大学生、大学院生からなり、組織委員会により任命される。選考委員は、運営委員の支援のもと授賞作品の選考にあたる。北海道・東北、関東、中部、関西、中国・四国・九州の5地区のいずれかに所属し、地区が開催する会合に参加し、最終候補作を推薦する。各地区の代表2名が最終選考会に参加する。任期は1年とし、再任することができる。

3.5 事務局

事務局は、活動の調整や、ゴンクール賞日本のインターネット・サイトの管理などの事務的業務を担う。組織委員会から任命される3名の構成員から成り、任期5年で活動するものとする。任期後は、再任することができる。

3.6

組織委員会は、ゴンクール賞日本における選考終了後、財団の理事会に対して活動報告書を提出するものとする。また、組織委員会は、開催年10月に財団の理事会において、翌年のゴンクール賞日本について予算案を提出するものとする。

4. 選考の流れ

4.1 ゴンクール賞日本は、フランスのアカデミー・ゴンクールが選出するゴンクール賞の候補作8点から、「日本の学生が選ぶゴンクール賞」を選出する。

4.2 選考は、日本の教育機関に籍をおく学生（高校生、大学生、大学院生）からなる選考委員によって行われる。選考委員は毎年公募され、組織委員会により任命される。

4.3 選考期間は、10月から翌年3月までとし、日本の全5地域（北海道・東北、関東、中部、関西、中国・四国・九州）に分けて選考会議を行う。この期間、選考委員は、必要に応じた回数、定期的に選考会議（リモート会議も含む）に参加し、読み合わせ、意見交換を通じて選考を行う。

4.4.

各地区の選考にはそれぞれ数名の運営委員が支援のために参加し、運営を補助する。ただし、運営委員は選考そのものには関与しない。各地区の運営委員のひとりを地区の責任者とする。地区責任者は組織委員会によって任命される

4.5

選考は、以下に示すカレンダーに従って進められる。ただし、各委員会が必要と思われるときには、必要な運営会議、選考会議を催すことができる。

- 10月

- 選考委員の募集

- 選考委員の投票による第一次選考（8冊から4冊に作品を絞る）

- 10月から3月まで

- 選考会議の定期開催（各地区による）

- 3月下旬

- 「日本の学生が選ぶゴンクール賞」の最終選考会

4.6 5地域の選考委員会で選考会を行った後、3月下旬に東京日仏学院にて行われる最終選考会にて、「日本の学生が選ぶゴンクール賞」を選出する。選出するにあたっては、5地域からの代表者による討議によって決定するものとする。

4.7 「日本の学生が選ぶゴンクール賞」の受賞作の発表は、最終選考会同日に、フランス大使公邸にて、駐日フランス大使の出席のもと、学生と教員、記者ならびに、両国の作家（後見人）、出版業者、評論家などが列席するレセプションにおいて執り行われる。

4.8 「日本の学生が選ぶゴンクール賞」の受賞作は、出版社の協力のもと、翌年の授賞式までに翻訳出版されるものとする。

5. 後見人

5.1 組織委員会は、「日本の学生が選ぶゴンクール賞」開催にあたり、毎年、日本人作家1名、フランス人作家1名を後見人として指名する。後見人とは、本選考が正当に行われた

ものであることを見届けると同時に、賞が日仏友好の証であることを代表するものである。

5.2 後見人は、日本人作家については、現在活躍する日本の小説家から推薦される。フランス人作家については、「日本の学生が選ぶゴンクール賞」の前年の受賞者を任命することを原則とする。

5.3 後見人は、任命された場合には、以下の活動に寄与することを約束する

- 3月にフランス大使公邸で行われる授賞式への出席、授賞式でのスピーチ
- 日仏学院との提携で催される講演会や様々な文学イベントへの参加（フランス側後見人）
- 学生選考委員との交流会への参加、および学生へのアドバイス（日本側後見人）

5.4 後見人の任期は1年とする。

実行委員名簿
(2025年度)

組織委員

氏名	所属	役職
澤田 直 (委員長)	立教大学	教授
ミカエル・フェリエ(委員)	中央大学	教授
コリーヌ・カンタン(委員)		翻訳家

運営委員

氏名	所属	役職
倉方 健作	九州大学	教授
村石 麻子	福岡大学	准教授
逸見ヴィアート・クロエ	順天堂大学	准教授
マリ＝ノエル・ポーヴィウ	明治学院大学	准教授
小黒 昌文	早稲田大学	教授
佐々木 匠	早稲田大学ほか	非常勤講師
中村 彩	立教大学	兼任講師
安達 孝信	名城大学	助教
岩津 航	金沢大学	教授
山崎 美穂	和光国際高等学校	講師
谷本 道昭	東京大学	教授
國枝 孝弘	慶應義塾大学	教授
加藤 靖恵	名古屋大学	教授
篠原 学	大阪大学	講師
ソニア・シルヴァ	立教大学	教育講師
小川 美登里	筑波大学	准教授
久保 昭博	関西学院大学	教授
関 大聡	日本学術振興会	特別研究員 PD
オリヴィエ・セカルダン	広島大学	准教授
宮川朗子	広島大学	教授
齋藤山人	日本大学	専任講師
石井咲	慶應義塾大学	非常勤講師

事務局

氏名	所属	役職
山田 仁	アセット・ジャポン	マネージャー
黒木 秀房	立教大学	教育講師
杉原 賢彦	目白大学	准教授

選考委員に関しては個人情報の観点から非開示